

令和3年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

A:90%以上、B:70～89%、C:50～69%、D:49%以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○・改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎周りと仲良く関わる子 ・生活委員会を中心に、よいあいさつができることを褒め、認める。 ・各学年の発達段階に応じて、思いやる言葉遣いやあいさつについて考える機会を設ける。 ・きらきらタイムで、友達のやさしいところを紹介して価値付ける。	あいさつや返事ができる	B	○児童会が中心となって、毎朝、「あいさつ運動」を行った。あいさつがよくできる児童を昼の放送で紹介することが、進んであいさつをすることへの意識付けになっている。 ※大きな声で進んであいさつができる子は多いが、できない子もいるので、自分から進んで気持ちのよいあいさつができる児童を増やすための取り組みを考えていきたい。 ○「心のアンケート」や「人間関係づくりプログラム」を定期的実施することを通して、一人一人の児童の悩みを把握したり、よりよい学級生活のための働き掛けを行ったりすることができた。 ○きらきらタイム(帰りの会)で、友達のやさしいところを紹介する場を設定した。自分や友達のよさが確認できたことで、学級内の人間関係づくりにより影響を与えた。	○低学年の子供は、声を掛けると恥ずかしそうにしているが、中・高学年の児童は、自分から進んであいさつし、大人とも上手な関わりができる。6年間の発達段階ごとの成長を感じる。 ○中学生がよく挨拶ができるのは、小学校から継続して挨拶の習慣を身につけているからだと思う。 ○日頃の子供の姿から、「学校を全開で楽しんでいる」様子が伝わってくる。 ○コロナ禍における日々の学校生活の中で、変化に対応するたくましさ育ててほしい。
		学校を楽しんでいる	A		
		友達を思いやる言葉遣いができる	A		
		学級は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	A		
かしこい子	◎自分の学びを見つめる子 ・振り返りの時間の確保 ・クラス貸し出しの活用、学級文庫の入れ替え	授業の内容が分かっている	B	○授業の終わりに、振り返りの時間を設定した。自分の学びを振り返り、成長を実感できる児童が増えてきた。教師は、振り返りから得られる児童の思いを授業改善に生かすことができた。来年度も継続していく。 ※ノート指導やワークシートの工夫を行い、振り返りを書くことをより日常化させることで、多くの児童に学びの実感をもたせ、自分の成長を感じることができるようになる。 ○全学年で本読みカードの裏面に「みなみが野学府の学習の手引き」を印刷し、保護者が家庭学習の時間や内容について意識できるようにした。 ※家庭学習(自主学習)の時間については、個人差があるので、学年の発達段階に応じた時間が確保できるような保護者への働き掛けを学級懇談会や学年だよりを通して行っていく。 ※課題の提示方法を工夫したり、自力解決の時間を確保したりすることで、児童が課題を自分事としてとらえ、進んで教師に質問して課題を解決していこうとする意欲を高める。	○「決められた時間以上家庭学習」の項目の評価が低い。これは中学校でも同じような傾向が見られる。保護者からすると、もっと家庭学習をしてほしいという思いが強いのではないかと。 ○「進んで学習」の項目の評価が低い。教師がお膳立てしすぎるのではなく、子供自らが調べる学習や、子供主体の授業を目指していけるといい。 ○タブレットなどを使って調べ学習などに、取り組んでいることが分かった。もっと調べたいという気持ちは、自分が興味をもったことを追求していくことで増えているのではないかとと思う。
		決められた時間以上、家庭学習をしている	C		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりしている	C		
		振り返りを通して、自分の成長を感じたり、次のめあてをもったりすることができる	B		
		本を読むことが好き	B		
たくましい子	◎体を動かすことを楽しむ子 ・オリエンテーションの充実 ・目標の設定や振り返りができる場を設ける。 ・運動遊びの掲示や環境づくり	屋内や屋外で、毎日体を動かしている	B	○感染症対策のため、運動会や持久走記録会は内容を変更して行うこととなったが、多くの児童が自分の目標をもち、本番に向けて練習に取り組むことができた。 ○昼休みには、外で友達と遊んだり運動したりする児童が多く見られ、身体を動かす習慣が身に付いている。 ○感染症対策として、手洗いうがいの仕方を職員の共通理解のもとで決め、指導にあたった。学校生活の中で、手洗いうがいの習慣が身に付いている児童が多い。	○コロナウイルス感染症の影響で、子供たちは学習や活動などで制限されることが多いが、状況に応じて対応していると感じる。
		自分に合った運動の目標を見つけることができる	B		
		自分から手洗いうがいができる	B		
家庭・地域との連携	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている 保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている 地域のの人たちと、学校や地域で関わっている	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	A	○コミュニティスクールコーディネーターの力をかりて、総合的な学習の時間を中心に、多くの学習ボランティアの協力を得ることができた。読み聞かせや登下校指導など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した教育活動ができていく。 ○地域の歴史や自然に関心がある児童が多い。龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、仿僧川の治水、米作りなど、今後も地域教材と関わる学びの場を生かし、児童の意欲が高まるような指導を継続していく。 ※本校の教育内容を、より保護者に理解してもらうために、PTA総会や学級懇談会の際、学校の取組についての説明を行うとともに、学校だよりやホームページなどを活用して情報公開を積極的に行っていく。	○龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めているのは、とてもいいことだと感じる。4年生が、「仿僧川の改修に尽くした人たち」という長野小独自の単元構想を立て、地域の方に質問し、夢中になって学習をしていることが分かった。 ○子供たちの下校時に、地域の自治会でパトロールをしている。その他にも下校時の見守りや登校時の旗振りなど、子供たちのために地域の方々が活動してくれている。子供たちが世代を越えて地域の方々と交流できる場所がよい。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	A		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	B		
		地域のの人たちと、学校や地域で関わっている	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本校の子供たちは、地域から温かく見守られ、大切に育てられていると感じる。今年度も、コミュニティ・スクールコーディネーターが、地域の多くの方々をゲストティーチャーとして招き、地域と学校を結びつける役割を担ってくれた。子供たちにとって、大変充実した活動につながった。来年度は、龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、仿僧川の治水など、地域教材と関わる学びの場を生かし、児童の意欲が高まるような学習を継続していく。また、読書活動を充実し、ビブリオバトルなどアウトプットの場を設けることで、子供たちのコミュニケーション能力をより高めていきたい。